



言葉を変えよう 未来を変えよう

「うざい」「バカちゃーうん」「きもー」みなさんが他の人に対して使う言葉が気になります。「できるわけないやん」「・・・したってムダムダ、意味ないし」「どうせ俺（私）や・・・」みなさんが自分自身に対して使う言葉も気になります。

人は生きるために空気や食べ物が必要なように、言葉もなくはないものです。あなたが声に出して言う言葉はもちろん、声に出さない言葉も、一言ももらさずに一番よく聞いているのは、あなた自身です。詩人・書家の相田みつをさんが次のような話をしています。

人間の脳は、「大脳」と「原始脳」に分かれているようです。そしておもしろいのは、原始脳は「主語」を認識できないのだとか。どういうことかということ、たとえば「あいつはバカだ」と言ったとします。「あいつは」と言っているのに、原始脳の方では、「あいつは」が認識されない。認識されるのは「バカ」という部分だけ。つまり自分に「バカだ」と言っているのと同じことになってしまうのです。で、原始脳は体の機能をつかさどるところだから、「バカだ」という言葉に反応して、体も疲れてしまう。というわけで、否定的な言葉は相手にも使わない方がいいのです。ということは、逆に相手に「やさしいね」と言ったら、それは自分にも言ったことになります。すると、やっぱり自分も優しくなれる。全ての言葉は自分の中からしか出ないし、そして出た言葉は全て自分に返ってきます。

他の人に言った言葉も、あなたの脳の中では、あなた自身に向かって言った言葉になってしまう。普段から否定的な言葉を多く使っている人、恐ろしいことになりませんか。考えただけでゾッとします。

ためしに、冒頭の6つのフレーズを声に出して言った後、次のフレーズを言ってみてください。“3S” 「すごい」「素晴らしい」「すてき」、「ありがとう」「だいじょうぶ?」「がんばれ」こちらの方が気持ちよくないですか？

意識していれば、よい言葉を使うことが習慣になってきます。この習慣も、あなたの未来を変えるかもしれません。

詫中生の学習の様子を県下に発信！



11月6日（木）、社会科の研究会が詫間中学校であり、石川数志先生が2年2組の授業を公開しました。県下の約60名の先生が詫間中学校に来られました。何ヶ月も前から、石川数志先生は詫間町の企業を訪ねて、みなさんが興味・関心をもつVTR等の資料を作成し、分かりやすく教える方法を研究してこられました。先生の熱意が伝わって、活気のある楽しい授業となり、多くのお褒めの言葉をいただきました。

さて、授業を参観された先生方に、詫間中学校の生徒はどのように映ったのでしょうか。「去年も同じ生徒の授業を見たが、今年は別人のようにがんばっていた」「自分の意見を発表できる人が多いのに感心した」「全員がきちんとした服装・頭髪で授業に参加できていることが素晴らしい」「中学生らしく課題にまじめに取り組む学級の雰囲気よかった」

一方、「発表するときの声がもっと大きければさらによかったのに」というような意見もありました。返事、発表、歌等で大きな声を出すことは詫間中学校全体の課題です。改善していきましょう。

